

## 次号予告

### 特集 組織システム論の新たな展開

持株会社、コーポレートガバナンスとカンパニー制度……………西村 茂 (ソニー)  
組織間関係の新たな展開……………榊原 清則 (慶應義塾大学)  
アウトソーシングと情報コミュニティ活用による新たな組織……………程 近智 (アンダーセンコンサルティング)  
テレワーク活用による新たな組織の構築……………印南 一路 (慶應義塾大学)

**編集後記**●今月の特集は「多主体複雑系のパラダイム」ということで、「多主体複雑系」をキーワードにパラダイムの紹介から事例まで多方面にわたる内容が取り上げられています。皆様はどの点に特に着目して読まれたでしょうか。企業に籍をおく身としては、なかでも企業組織、企業経営的側面に興味を持って読みました。多主体複雑系パラダイムでは、ホロン型経営に代表される有機体メタファーを1歩越えた文化メタファーに基づくとのこと。そこで、かつてブームを起こした「ホロン型経営」を思い起こしてみました。当時「ホロン型経営」はトップダウンの米国型、ボトムアップの日本型を越えた新たな経営パラダイムとして注目を集め、提唱者であるアーサー・ケストラーの『JANUS』(ヤヌス:訳書名「ホロン革命」)やそれに続く幾多の書物、特に経営書の類は大変な反響があったものです。その後何年かの冷却期間をおいて、今度はサンタフェ研究所により流行語化した複雑系の名の下に、その特

徴である「自己組織能力」、「相補性」、「分散性」等が再び脚光を浴びているように思えます。実際書店に足を運ぶと複雑系をうたった経営書を多く見かけます。いずれにしても今日のように巨大化した組織や複雑化した社会システムをひもとく鍵として多主体複雑系パラダイムの研究が一層進んでほしいものです。

●新たに編集委員となってはじめて編集後記を担当しました。一会員として特集や書評などを書いたことはありましたが、自由に書くことのできる編集後記というものはかえって筆が進まぬものだとすることを痛感いたしました。また、委員として十分な働きができていないことを反省しつつ、編集という仕事の大変さを日増しに感ずる今日この頃です。皆様のご意見をいただきながら、少しでもご期待にそえるようにしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。(笹山晋一)

### オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

**委員長** 大山達雄(埼玉大学) **副委員長** 田口 東(中央大学)

**委員** 上田徹(成蹊大学)、葛山康典(早稲田大学)、國澤直樹(東京電力㈱)、栗田治(慶應義塾大学)、笹山晋一(東京ガス㈱)、椎名孝之(助電力中央研究所)、繁野麻衣子(筑波大学)、外嶋成留(住友金属工業㈱)、田中宏和(神奈川工科大学)、田村明久(電気通信大学)、中里宗敬(青山学院大学)、原 裕淳(㈱東芝)、宮崎知明(富士通㈱)、矢島安敏(東京工業大学)、山下英明(駒澤大学)、吉野秀明(日本電信電話㈱)

本誌に掲載された記事についての著作権は、社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

## オペレーションズ・リサーチ

平成9年9月号 第42巻 第9号 通巻441号

代表者 刀根 薫

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル

電話 03-3815-3351(代) FAX 03-3815-3352 〒113

編集人 大山達雄

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151

### ●本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価 970円(本体924円、郵送料含) 年間予約購読料11,040円(税・郵送料含)

●本誌への広告お申し込みは明報社(3546-1337)、日経弘報社(3563-2241)へ